

感染症予防のためのマスクがとても暑く感じる今日この頃です。梅雨のうっとうしさと相まって生徒たちは大変です。

休校から学校が再会し、何もかもが2ヶ月遅れでスタートして1ヶ月半が過ぎました。社会全体がそうであるように、生徒たちにとって、当たり前だったことが当たり前ではなくなった学校生活となりました。給食は前を向いて話しをせず静かに食べなければいけません。楽しく話をしながらの会食がすっかり姿を消しました。人間関係の構築を学ぶこの大切な時にコミュニケーション活動を簡単にすることができないという状況です。今、できることの範囲で生徒も教員も必死により充実した学校生活を模索している毎日です。

6月の道徳から

・**3年生** 「一冊のノート」をみんなで読んで考えました。家族で支え合う、助け合うということについてのお話でした。家族は私たちの生活の中で最も身近な集団です。身近な存在であるために私たちは、そのありがたさや必要性を忘れてしまいがちなようです。「たとえ支え合えなくなっても今までの思い出があるから、ずっと家族だと思う。血が繋がっているからだけではなく、お互いの気持ちで繋がっているのが家族。」(生徒の感想から) 生徒たちはいろいろな思いをしっかりと感じとることができたようです。

・**2年生** 「挨拶は言葉のスキンシップ」を読んでみんなで考えました。挨拶の役割や感じのいい挨拶とは何かなど、社会人としての心構えについて考えるテーマでした。「相手の気持ちを考え、前向きな気持ちで挨拶することで、相手に良い気持ちを与えることができるのが挨拶。」(生徒の感想から) 大沢中にステキな挨拶が広がりそうです。

・**1年生** 『愛情貯金』をはじめませんか』を読んで考えました。礼儀の心について考えました。ペアになり、笑顔の挨拶とムツとした顔の挨拶をお互いに実践してみました。実際に体験してこそ気付くことがあり、挨拶一言でこんなに感じが違うことに驚いた様子でした。友達にも家族にも気持ちのよい言葉かけができるきっかけとなる授業でした。